

99-282

問題文

55歳男性。体重67kg。C型慢性肝炎の治療のため、以下の薬剤が処方された。

(処方1)

注射用ペグインターフェロン アルファ-2b（遺伝子組換え）100 μ g/0.5 mL 用
(溶解液：日本薬局方「注射用水」0.7 mL 添付)
皮下注射 1 バイアル

(処方2)

リバビリンカプセル 200 mg 1回2カプセル（1日4カプセル）
1日2回 朝夕食後 7日分

問282

上記処方に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

1. ウイルス陰性化率は、ウイルスの遺伝子型の影響を受ける。
2. リバビリンは、単剤で強い抗ウイルス効果を示す。
3. B型慢性肝炎にも著効を示す。
4. 主な副作用として発熱がある。
5. 葛根湯は併用禁忌である。

問283

ペグインターフェロンアルファ-2bは、インターフェロンアルファ-2bにメトキシポリエチレングリコールを結合させたものである。この結合の目的として、誤っているのはどれか。1つ選べ。

1. 水溶性の向上
2. 抗原性の低下
3. タンパク質分解酵素に対する安定性の向上
4. 肝臓への標的指向化
5. 糸球体ろ過の抑制

解答

問282：1, 4問283：4

解説

問282

選択肢1は、その通りの記述です。

選択肢2ですが

リバビリンは、インターフェロンとの併用で効果を発揮する抗ウイルス薬です。単独で強い抗ウイルス効果を示すわけではありません。よって、選択肢2は誤りです。

選択肢3ですが

リバビリンを併用するインターフェロン療法はB型肝炎には適応がありません。よって、選択肢3は誤りです。

選択肢4ですが

その通りの記述です。

選択肢5ですが

葛根湯は、併用禁忌ではありません。ちなみに、小柴胡湯が併用禁忌です。よって、選択肢5は誤りです。

以上より、正解は 1,4 です。

問283

ポリエチレングリコールを結合させることを PEG 化といいます。PEG 化の目的は、水溶性の向上、血中濃度の維持（糸球体ろ過の抑制 など）、抗原性の低下、タンパク質分解酵素に対する安定性向上などです。

PEG 化により血中濃度が維持され全身に長く存在するようになる、というのが大きなメリットの一つです。肝臓への標的指向化という目的はありません。

以上より、正解は 4 です。